アイスプラネット(6)

椎名 誠

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

場面1

登場人物の設定

・ぐうちゃん…「僕（ぼく）」の叔父（おじ）。いそうろう。
・僕（悠太（ゆうた））…ぐうちゃんの話が好き。
・母………ぐうちゃんとは姉弟。ぐうちゃんの落ち着かない仕事のしかたが気に入らない。
・父………単身赴任（ふにん）で、週末に帰ってくる。ぐうちゃんのいそうろうを歓迎（かんげい）している。

夏休みになってすぐ

ぐうちゃんは長い仕事に出たが、「僕」は気にも留めなかった。

夏休みの終わり近く（父と母の会話）

・父…ぐうちゃんは日本の中にいたら気がつかないことが見えていて羨（うらや）ましい。
・母…ぐうちゃんの気ままな暮らしが「僕」に悪い影響（えいきょう）を与（あた）えないか心配。

「僕」は自分のことでぐうちゃんが責められるのは少し違（ちが）うと思い、電気の消えたぐうちゃんの部屋が寂（さび）しく感じられた。

場面2

ある日の夕食後（ぐうちゃんの話）

「僕」はぐうちゃんから、馬を飲み込（こ）んでしまうアナコンダや、三メートルもあるナマズ、アイスプラネットの話を聞いた。

（「僕」の気持ちの変化）
怪（あや）しさがやっぱりおもしろい。
←
「僕」を子供扱（あつか）いしているようで頭にくる。

場面3

ぐうちゃんの話を聞いた日の翌日

学校に行く途中（とちゅう）、同じクラスの吉井と今村に、ぐうちゃんから聞いた話をしたが、「ありえねえ。」「証拠（しょうこ）見せろよ。」と言われてしまった。

家に帰り、ぐうちゃんに証拠の写真を求めた「僕」は、写真を整理したら見せると言われ、ぐうちゃんが言い逃（のが）れをしていると感じた。

場面4

九月の新学期が始まってしばらくした頃（ころ）

ぐうちゃんが帰ってきた。久しぶりにぐうちゃんのほら話を聞きたいと思ったが、ぐうちゃんは突然（とつぜん）、外国に行くと言った。

「僕」は「勝手に行けばいいじゃないか。」とぶっきらぼうに言い、二度とぐうちゃんの部屋に行かなかった。

十月の初め

ぐうちゃんは「いそうろう」を卒業し、「僕」に力の籠（こ）もった握手（あくしゅ）をして家を出ていった。

場面5

四か月ぐらいたってから（ぐうちゃんからの手紙）

手紙にはぐうちゃんの力強い文字がぎっしり詰（つ）まっていた。封筒（ふうとう）からは、人間の倍くらいあるナマズの写真と、氷の惑星（アイスプラネット）の写真が出てきた。

確認テスト　教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の各文を、本文の流れに沿って並べかえなさい。

ア ある日の夕食の後、「僕」はぐうちゃんからアイスプラネットの話を聞いた。

イ ぐうちゃんから封筒が届き、中からアイスプラネットの写真が出てきた。

ウ 九月、「僕」はぐうちゃんが外国に行くと聞き、ぐうちゃんの部屋に行かなくなった。

エ 学校に行く途中、「僕」は同じクラスの友達にぐうちゃんから聞いた話をした。

［　　→　　→　　→　　］

(2) 次の各文を、本文の流れに沿って並べかえなさい。

ア ぐうちゃんの手紙には力強い文字がぎっしり詰まっていた。

イ ぐうちゃんは「僕」に力の籠もった握手をして家を出ていった。

ウ 「僕」は電気の消えたぐうちゃんの部屋が寂しく感じられた。

エ 「僕」はぐうちゃんに自分の人生がからかわれたと感じた。

［　　→　　→　　→　　］

(3) 本文の内容に合うものを**二つ**選びなさい。

ア 「僕」の母は、「僕」にぐうちゃんの話をよく聞いて勉強してほしいと思っている。

イ 「僕」の母は、ぐうちゃんの気ままな暮らしが「僕」に悪い影響を与えないか心配している。

ウ 「僕」の父は、ぐうちゃんが日本にいたら気づかないことが見えていることを羨ましいと感じている。

エ 「僕」の父は、ぐうちゃんがいつまでも気ままな暮らしをしていることを羨ましいと感じている。

［　　・　　］